

回覧

令和三年度
第十五回

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	Inashikishi seisyonen no syucyo taikai

作文集

青少年の声に
耳を傾けてみませんか？





青少年育成稲敷市民会議
会長 矢崎 克実

いぬらり

青少年育成市民会議の運営に対しまして、市民の皆様からいつも多大なご理解とご支援を頂きまして、心より厚く御礼申し上げます。さて、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、稲敷市でも小学校や中学校が休校になってしまいました。また、この青少年の主張大会をはじめ、様々な活動が中止やおなしとなってしまいました。令和3年度になっても感染拡大は収まらず、全国各地で緊急事態宣言が発令、茨城県でも1日に100人を超す患者が発生

し、昨年引き続き活動中止となつてしまいました。そのような中でも、大会部員の皆さんから、子どもたちのために、この大会を開催しようという意見が出されました。そして、もし状況に変化がない時は、児童生徒の発表内容を作文集として残そうということになり、全員一致いたしました。

そして、稲敷市教育委員会や稲敷市学校長会からもご協力をいただき、皆さんから代表者が選出され、発表原稿が投稿されました。発表者はもちろんのこと、指導に当たられた先生方にも大きなご負担をおかけいたしました。ここに改めて感謝申し上げます。

十月が過ぎ、感染症にか

かる方は少なくなってきましたが、検討を重ねた結果、残念ながら大会を開催することは断念し、この作文集については発行する運びとなりました。

最後になりましたが、事務局の方々をはじめ、市民会議の関係者の皆様、教育委員会の方々、ご指導いただいた各学校の先生方、また一つ一つの発表者の作文にご講評を頂いた教育委員会指導室の川村満博先生、それぞれにお忙しいなか、青少年主張大会に向けご尽力いただきましたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

目次

■ごあいさつ

青少年育成稲敷市民会議

会長

矢崎 克実

1

作文発表

小学生の部

1 ありがとうの輪

沼里小学校

六年

喜納

康生

4

2 私の小さな弟

高田小学校

六年

大野

そよ

6

3 みんなが幸福に生きられる未来

桜川小学校

六年

椿

礼衣

8

4 将来の夢

あずま西小学校

六年

水口

かさね

10



中学生の部

5 私達は今、「何をすべきか。」

江戸崎中学校

二年

蛭原

杏花里

12

6 自分で決めたことだから

新利根中学校

二年

川島

莉央奈

14

7 SNSを安全に使うために

桜川中学校

三年

本橋

梨心

16

8 感謝とできること

東中学校

三年

細田

ひなた

18

高校生の部

9 生きていることの大切さ

江戸崎総合高等学校

二年

桐部

心

20

10 今を大切に

江戸崎総合高等学校

二年

宮本

真希

22

講評

稲敷市教育委員会指導室

川村満博

24

1 ありがとうの輪

沼里小学校 六年 喜納^き 康生^{こうせい}

ぼくの通う沼里小学校では、みんなが三つの達人を目指してがんばっています。三つの達人とは「あいさつ名人」「やさしさ案内人」「がんばりの鉄人」です。

始業式で、校長先生から、「おはよう」や「こんにちば」は、人々との心をつなぐ接着剤で、「ありがとう」や「ごめんなさい」は、仲間との絆を深めると聞きました。そして、友達や周りの人を大切にすることは、自分も周りの人から大切にされると聞きました。どれもとても大事なことだと思いました。

今、ぼくは六年生です。最高学年

として三つの達人に近づくように、自分の役割を果たしてきました。あるとき、ふと、ぼくはがんばっていると思うけれど、ほかのみんなはどうなんだろうと思いました。

そこで、ぼくは、みんなが達人になって、沼里小学校を笑顔あふれる学校にするためにはどうしたらよいかを考えてみました。

はじめに思ったことは、相手はどう思うかを考えすぎてはいけないうことです。自分がしてもらったうれしいと思えることを進んで進めることが基本になるのではないのでしょうか。まずは、自分の近くに

る友達や家族に「ありがとう」と言ってもらえるような行いをするのが大切だと考えます。そして自分がやさしくしてもらったら、その分、ほかの人にやさしくすればいいと思います。やさしくすれば、「ありがとう」と相手が言ってくれなくても、自分の気持ちはきっと高まると思います。だから、困っている人や、助けが必要な人には、ためらわずに手を差し伸べたいです。そして、ありがとうリレーをつなげていって、ありがとうの輪を広げていきたいです。そうすればきっと笑顔が増えると思います。



ありがたいの輪を広げるためには、周りに注意を払うことが必要です。そうしないと、助けが必要な人を見過ごしてしまうかもしれません。そして、声をかけることも勇気が必要だと思います。

ぼくは、その勇気について考えたところ、二つの勇気が必要なのではないかと気づきました。

一点目は、「人に話しかける」という勇気です。知らない人に声をかけるというのは、勇気のいることです。いきなり声をかけたら変な人と思われてしまうかもしれないという不安があるはずです。でも、困っている人はきつとうれしく思うのではないのでしょうか。

二点目は、「寄りそう」という勇気です。他人が落ち込んでいるところに一緒に寄り添うということは、

とても難しいと思います。でも、笑顔で「こんにちは」と話しかけてみれば、少し相手の気持ちが変わるかもしれません。そして、ゆっくりでもいいから話を聞いてあげて、その人の立場に立って気持ちを考えてあげたいです。そうしたら、やさしさが伝わり、ありがたいの輪が広がると思います。

これ続けていけば、沼里小学校に達人が増え、笑顔があふれて学校がもっと明るく楽しくなると思います。そして、お家の人や、ぼくらの住む地域の人にも「ありがたいの輪」が伝わると思います。

ぼくは、これからもたくさんの人に「ありがたい」と言ってもらえるように行動していきたいです。そして、世界を明るくしていきたいと思っています。



2 私の小さな弟

高田小学校 六年 大野^{おおの} そよ

私には、小学校四年生の弟と、二年生の妹、三才になる小さな弟がいます。一番下の弟とは、八つも年がはなれているので、めんどろをみるのは大変ですが、にぎやかで笑顔がたえない毎日です。

三年前、一番下の弟がまだお母さんのお腹の中にいたころ、仲の良いおばさんから、『ザザのちいさいおとうと』という本をもらいました。表紙には、お腹の大きなしまうまのお母さんとしまうまの男の子が向かい合っている絵が描かれています。この本の内容をみなさんに紹介します。あるとき、しまうまのザザに弟

が産まれます。ザザのママとパパはいそがしく、ザザはいつも一人で遊んでいます。本を読んでほしいのに、ママは料理、パパは買い物で本を読んでもらえません。ママにだっこをせがむと、

「あなたが赤ちゃんをだっこしてあげて。」

と、言われてしまいます。ザザは一杯弟と遊び、夜になって弟がねた後に、ママにだっこをしてもらいました。

この本を読んで、ザザにとっては初めての弟だったけれど、兄としてきちんとめんどろをみることができ

たことや、それを「楽しい」と思えたことにザザの成長を感じました。

そして、この本を読んだ二か月後、私の家にも赤ちゃんが産まれました。お母さんと赤ちゃんが退院し、家に帰ってきた日のことは今でもよく覚えています。久しぶりに会ったお母さんは、私に、

「そよ、ありがとうね。」

と言いました。お母さんのいない間、ザザと同じように弟や妹のめんどろをみていましたが、お母さんにそのようにほめてもらうと、とてもうれしくなりました。赤ちゃんの身体は、目、口、手、足と何もかも小さく



見えました。きん張しながらもだっこしてみると、赤ちゃんの小さな身体からぬくもりが感じられ、ずっと抱きしめてそばにいたいという気持ちになりました。

私は、「赤ちゃんが無事に生まれ、元気に育つということは、とてもありがたいことだ」と、最近考えるようになってきました。きっかけは、先日のテレビニュースの中で取り上げられていた、アフガニスタンの空港でさつえいされた一枚の写真を目にしたことです。その写真は、一人の男性が赤ちゃんを高く抱き上げ、鉄条網ごしに兵士に引き渡しているというものでした。片うでをつかまれ、持ち上げられている赤ちゃんは、口を開けて泣いているように見えました。私は、一緒に見ていたお母さんに何が起きているのかをたずねま

した。お母さんは、赤ちゃんの命を守るために男性がとった行動だと教えてくれました。また、世界には今でも危険な争いを続けている国や地域があることを知りました。私は、そのような国々があることなど考えたこともなかったのですが、とてもおどろきました。同時に、私のいる環境は何と恵まれているのだろうと感じました。

家では、おじいさんやおばあさん、お母さんやお父さん、私と弟や妹で小さな弟のめんどうを交代でみることができます。なるべく泣かさないように、家族みんなでリレーをするようにバトンタッチしながら、小さな弟と遊びます。みんなで「うるさいなあ。」「かわいいね。」などと言います。私がおんぶしながらジャンプすると、「ウキヤキヤー。」と笑い

ます。家族で笑い合える幸せを、これからも大切にしていきたいです。

私が過ごしている当たり前の日常が、当たり前ではない国や地域があります。世界中のどこでも、赤ちゃんが無事に生まれ、危険にさらされることなく元気に育つことができるようになってほしいと思います。そして私の小さな弟も、元気にすくすくと育ってほしいと思います。

3 みんなが幸福に生きられる未来

桜川小学校 六年 椿^{つばき} 礼衣^{れい}

SDGs。この言葉を聞いたことのある人は多いと思います。これは、貧困、人種差別、環境破かいなど、世界が直面しているさまざまな問題を解決するために国連が定めた目標で、「持続可能な開発目標」という意味です。十七の具体的な目標がかげられています。わたしは、この中から、陸と海の豊かさを守ること、人や国の不平等をなくすことについて考えました。

まず、陸と海の自然破かいについてです。人間をはじめとする地球上のすべての生命は、陸と海によってはぐくまれてきました。しかし、今、

地球の自然環境がおびやかされています。その原因を作っているのは、わたしたち人間です。人間は、生活のために、森林をばつ採し続けてきました。そのことにより、森林減少や砂ばく化などの問題が起こりました。そして、そのために、住みかなくなり絶滅してしまう動物もいるのです。また、土地が劣化して自然災害が起こりやすくなるということも報告されています。森林だけではありません。海の汚染も深刻です。

わたしは、以前、保護されたウミガメのおなかから大量のプラスチックゴミが見つかったというニュースを

見たことがあります。その量の多さに、おどろくと同時に、海の汚染がこんなにもひどいということを実感しました。今、世界中の海には、たくさんゴミがただよい、光のあたらないような深海でも見つかったりするそうです。人間がゴミを捨てることで海が汚れてしまい、そして、それが、海の生物の生命にもいきようを与えているのです。自然破かいと海の汚染、どちらも言えることは、わたしたち人間の行動が原因となっているということなんです。年を追うごとに深刻になっているこの問題を解決できるのは、人間だけなのです。

決めるのは、人間だけなのです。



次に、人や国の不平等をなくすことについてです。悲しいことですが、世界には、さまざまな差別が今でも残っています。差別の理由は、人種、性別、障がいなどです。これらは、自分で変えようとしても、変えることができないことです。しかし、このような理由で、社会の中で弱い立場に立たされている人たちがたくさんいるのです。外国では、国せきや人種などによるへん見からぼう力を受けている人がいます。また、女性だからという理由で教育を受けることができない人たちもいます。このような事実を知って、わたしは、どうしてこんなことが起きるのだろうと思います。そして、同じ人間同士がにくしみ合うこと、差別によって自分らしく生きられないことは、とても悲しいことです。同じ地球に生

まれたのに、差別する人間と差別される人間がいます。この現実を変えるためには、「自分さえよければ、まわりはどうでもいい」という考えから、自分とちがった人でも、その人のよさを見つけ、受け入れるという考えに変えていかなければなりません。それができれば、すべての人がよりよく生きることができると思っています。

SDGsは、二〇三〇年までの達成を目指しています。だから、あと九年しかありません。この九年間の間に、目標達成に近づけることができるかどうかは、世界中のすべての人たちにかかっています。わたしは、地球に住む一人の人間として、自分にできることを長く続けていくことが大切だと思っています。そして、地球の危機を救うために、家族や友

達にも協力を呼びかけていきたいです。自分だけでなく世界中の人や生物が、豊かで幸福にらせるようになった世界を見てみたいです。

4 将来の夢

あずま西小学校 六年 水口 かさね

水口 かさね

みなさん、将来の夢はありますか。

私にはありません。飛行機のパイロットです。お客さんが五百人も乗った飛行機を一人で操縦するパイロットを、かっこいいと思ったからです。私は小さなころから何度か飛行機に乗ったことがあります。大きな事故なくフライトを終えられるのは、パイロットだけでなく、キャビンアテンダントや整備士など、たくさんの人たちのおかげです。私はその中でもパイロットに興味をもって、パイロットになりたいと思いはじめました。

ところが、そのことを祖母に話す

と、

「今は女性でもパイロットになれるの。」

と言われてしまいました。私は、まさかそう言われるとは思っていません。だったので、びっくりしました。女性パイロットは一九九〇年代にはすでに活やくしているのに、祖母には「パイロット＝男性の職業」というイメージをもたれていたのです。

また、私は飛行機だけでなく、電車や新幹線も大好きです。母に聞くと、私が三才のころの読み聞かせは、物語や絵本ではなく、電車や働く車の本を読んでほしいとせがんでいた

そうです。

ただ、電車や車などが好きだという話を習い事の先生にすると、

「男の子に生まれてくれば良かったのに。」

と言われました。最初はほとんど気にしなかったけど、何回も言われるうち、（女の子が電車を好きではダメなの。）と思うようになってきました。女の子が電車や飛行機を好きだと、変な子になってしまうのか、とおどろきました。

確かに私は女の子らしい可愛い物などにあまり興味がないし、スカートもほとんどはきません。だから



と言つて友達には何も言われ
ないし、男性、女性で決めつ
けて話すのは良くない事だ
ということも、みんな理解
しています。でも、周りの
大人たちから性差別的なこ
とを言われている、好きな
物、事を否定されているよ
うで困ります。服や好きな
物はいくつもの自由なのに、
と思います。

もちろんパイロットになる
には、事業用操縦士という
資格や、無線の免許をとら
ないといけないし、飛行機
が飛ぶ仕組みを学んだり、
悪天候時のシミュレーション
を、フライトシミュレーター
でしたりと、大変なことは
たくさんありますが、夢をか
なえたいし、応えんしてく
れる人もいますので、途中
でやめるわけにはいきませ
ん。

だから、私はパイロットに
なるために今からがんばっ
ていきます。

力や集中力、判断力、英語
力、情報処理能力、適応力、
思考力、思いやりなど、身
につけなければいけないも
のはたくさんありますが、
がんばってパイロットにな
りたいと思います。

日本ではジェンダーギャップ
がある職業はたくさんあり
ます。「運転士は男性」「
保育士や看護師、キャビン
アテンダントは女性」など
のイメージが強いと思いま
す。日本はジェンダーギャ
ップ指数が低く、世界のラ
ンキングでは下から数えた
ほうが早く見つけられます。
性別で職業をあきらめなけ
ればいけない、という社会
は変えていかなければなり
ません。将来、女性パイ
ロットがあたりまえになる
といいなと思います。



5 私達は今、「何をすべきか。」

江戸崎中学校 二年 蛸原^{えびはら} 杏花里^{あか}

私が人間として生きる上で必要だ
と思うことは、「協調性」をもつと
いうことです。自分の意思や考えを
独りよがりではない言葉で伝え、相
手の意見もしっかりと受けとめてい
けば、それは成り立つと思います。
しかし、この二つを行わず、自分の
主張だけを通したり、何も言わずに
だ黙っているだけであつたりする
と、絶対に成り立たないと私は思
います。

何故そうなってしまうのか。何故
おかしいと思ったことを発言できな
いのか。それは、周りのことが見え
ていない、見ようとしていない人が

上の立場に立つてしまうことが原因
だと思えます。これによって引き起
こされるのが、学校の場合はいじめ、
SNSの場合は誹謗中傷です。加害
者側は主観的にしか物事を見ず、先
のことを考えない。だから次々と人
を傷つけるような言動ができてしま
うのだと思います。

「スクールカースト」というもの
が学校にはあり、時には、その頂上
から底辺へは簡単に転落してしまう
というのを、私はこの前テレビで
知りました。学校は、本来生徒がの
びのびと学び成長していく場のはず
なのに、明日どうなるのか分からな

い、そんな恐怖のなか生活してい
なければいけないのかと感じまし
た。加害者側が被害者になるとい
う、そんなことを繰り返すだけでなく、
生徒間で権力の順位づけがなされて
しまい、誰にも言えない不安が、S
NS等で見ず知らずの人への誹謗中
傷、悪口につながっているのではな
いかと思えます。その人の気持ち
を考えずコメントをしている人も
いるので、日常でのストレスを
発散するためにコメントする人も多
いと聞きます。こうして負の連鎖が
続いていくんだと感じました。

世の中が便利になればなるほど、



生きづらさが増していくように思います。互いを認め合い、異なる立場を理解してみんなで協力出来る社会。そんなものは、現状ただの理想

論に過ぎないのではないかと、気持ち揺らぎます。いじめや誹謗中傷だけでなく、男女差別、人種差別等々、人権問題だらけです。だから、誹謗中傷コメントをした人を特定し、罰金刑を科すという法律が制定されたり、SDGsに「ジェンダー平等を実現しよう」「平和と公正をすべての人に」などの項目があったりと、少しずつ社会をよくしようという動きが出てきているんだと思いました。

「いつか達成できたらいいよね」ではなく、「この理想論を必ず現実にしてみせる」くらいの強い意志がなければ達成することなんてできま

せん。自由に人間らしい生き方をするために、私達は今何をすべきか一人一人が考えることが必要だと思いました。

先日耳にしたことなのですが、東京パラリンピック開催で今注目を集めている「車いすバスケット」の選手達が満足に体育館を使わせてもらえないということがあるそうです。当たり前ですが、車いすバスケットは車いすでプレーします。そのため、急ブレーキをかけると摩擦で床が焦げたり、傷が付いたりします。それで体育館の使用を拒まれるそうです。これは車いすバスケットに限った話ではありません。健常者のための施設があるなら、体の不自由な人のための施設も増やさなければいけないのではないのでしょうか。きっとそれは簡単なことではないのでしょ

う。ですが、健常者だから、体が不自由だから、と分けて考えず、同じ一人の人間として見られれば実現すると思います。

前に出る人の言葉を聞くだけでなく、主張できずにいる人にも耳を傾け、皆が光の当たる世界になっほしいです。

6 自分で決めたことだから

新利根中学校 二年 川島 莉央奈

中学生になったら吹奏楽部に入っ
て、かっこよく楽器を演奏したい！

中学校進学を控えた私は、憧れの
吹奏楽部への入部を考えていまし
た。そんな私に母は、

「莉央奈はあまり体力がないから楽
器の演奏は無理だよ。自分に合った
部活動を選んだほうがいいんじゃない
かな。」

と言いました。幼い頃から体力がな
くて病気にかかりやすかった私のこ
とを心配しての母の言葉でした。中
学生になった私は、吹奏楽部に入り
たい、でもやっぱりお母さんの言う
通り無理かもしれないと悩み、結局

吹奏楽部をあきらめて美術部に入部
しました。

美術部に入部して活動してしまし
たが、部活動の時間に聞こえてくる
吹奏楽部の楽器の音がいつも気に
なって、なかなか集中できず（やっ
ぱりお母さんにきちんと自分の気持
ちを伝えてもつとよく話し合ってみ
ればよかったな。）と考え始めまし
た。美術部に入部した後悔と吹奏楽

部への思いから、本当にこのままで
いいのかな、こんな状態で中学校生
活を楽しめるのかなと悩みました。

ある日の放課後、吹奏楽部が練習
しているとところをのぞいてみると、

友達が楽しそうに楽器を演奏してい
ました。（私も演奏してみたい！）

と強く心に思い、部活動見学をさせ
てもらうことにしました。パーカッ
ション、アルトサククス、トランペッ
トの演奏体験をさせてもらうと、な
んとトランペットの音が出ました。
トランペット担当の友達は、

「すごいね！初めて吹いてこんなに
音が出る人はなかなかいないよ。」

と驚いてくれて、私は無理だと思っ
ていた音が出たことや友達がほめて
くれたことで、とても嬉しくなりま
した。その後も、友達や先輩方が基
礎練習に真剣に取り組んでいる様子



を見て、（やっぱり吹奏楽部に入りたい！）と思いました。

その日の夜、母に、

「やっぱり私は吹奏楽部に入りたい。吹奏楽部のほうが自分に合っていると思う。」

と伝えると、母は、

「自分で考えて決めたことなら、それでいいよ。頑張ってみな。」
と言って、吹奏楽部で活動したい私を応援してくれました。私はちゃんと自分の気持ちを伝えて、本当に自分がやりたいことをやることを嬉しく思い、自分で決めたことだから絶対に頑張りたい演奏ができるようになりたいと思いました。

担当楽器はパーカッションになりました。他の同級生より遅れての入部だったけれど、先輩方が優しく丁寧に教えてくださったこともあり、

自分でも一生懸命練習に取り組んでどんどん演奏できるようになってきました。

吹奏楽部の練習はとても楽しくて、難しいリズムが上手に演奏できるようにになったときの達成感は格別です。

私が考える吹奏楽部は「吹いて奏でて楽しい部活動」です。そして、私の目標は「一音入魂」です。パーカッションは料理で例えると「味付け」だと私は思っています。一音一音を大切にして演奏全体がよりすばらしいものになるように、これからも頑張っていきたいです。自分が本当に好きで、心からやってみたくて思ったことだから、こんなに楽しいと思えるし、努力してできるようになることが楽しいのだと思います。自分で決めたことは努力を惜しま

ず、責任をもってやり遂げる、今学んでいることは、きっとこれからの将来でも役に立つと思っています。

7 SNSを安全に使うために

桜川中学校 三年 本橋 梨心

もと橋

り心

近年、SNSでの犯罪の報道がよくニュースで取り上げられているのを耳にします。詐欺、誘拐、殺人など様々な事件が起きています。SNSは私達にとって身近なものであり、遠くにおいても友達や知り合いと連絡が取れたり、学習でも多くの情報を得たりすることができます。スマートフォンやタブレットを手にした日は無いと言ってもいいでしょう。そのような私達が、SNSで危険な目に遭わないようにするにはどうすればいいのかを考えていきます。

犯罪が多発しているにも関わらず

SNSが廃れることがないのはなぜでしょうか。それは、人々がプラスに感じる部分が多いからだと思います。例えば、ゲームなどの娯楽が多い、簡単に調べたいことを検索して知ることができるなどが挙げられます。その中でも私が特にプラスだと感じる点はいろいろな価値観の人と交流できるということです。自分とは異なる考え方に触れ、今まで知らなかった世界を理解することは多くの学びがあり豊かになります。

一方で、人々がマイナスに感じる部分も少なくありません。最初に挙げた詐欺などに加え、誰でも安易に

ゲームなどで課金ができる、文字のみの交流だから誤解を生みやすい、個人情報漏洩しやすいなど、いくつかのトラブルに巻き込まれてもおかしくない状況があります。中学校でも、情報モラルの講演会やいろいろな授業などでその危険性と安全に使うための知識を学びます。

私の家ではそんなSNSでのトラブルに巻き込まれないようにするために、使い方のルールを大きく分けて二つつくっています。

ひとつは、「通販などで買いたい物があったり、アプリをインストールしたりするときには相談して買



う、規約などで分からないことがあったら相談する」ことです。私はこれまで、洋服や小物をネットで買ったことがあります。支払い方法について母に相談しながら手続きをしていきました。一つ一つ確認しながら安心して購入することが出来ました。また、規約に出てくる説明は、難しく理解できないことがあります。母に読んでもらう、分かるように説明してもらうことで、アプリを使用するときの気をつけなければならぬこと、注意しなければならぬことが分かります。それでも規約が理解できない場合には、アプリのインストールを止めたこともありました。

もうひとつは、「家族が見ていないところや、寝ている時間には使わない」ということです。私の家では、

パソコンやスマートフォンは家族のいるリビングで使うことになっていきます。自分の部屋に持ち込むことは出来ません。そのため、長時間使用したり、自由に友達と連絡をとったり出来ませんでした。私はこの決まりを不満に感じたこともありました。しかし、兄が一度トラブルに巻き込まれたことがあり、その失敗から今は必要なルールだと納得できています。信頼性のある情報か、安心できるサイトかなど、SNSについて家族でよく話し合ったり、相談したりするようにしています。

私はまだ中学生です。どんなに自分が気をつけていても、また気をつけているつもりでも知らない間にトラブルに巻き込まれてしまうことがあるかもしれません。家族とSNSの使い方について事前に話し合っ

おくことで、トラブルを未然に防ぐことができるのではないかと思います。しかし、話し合っているから「このくらいなら大丈夫かな」と自分で判断しなくなるとはそれもまた危険です。自分で考え、判断することも忘れてはいけません。自分自身がSNSの危険性についてしっかり理解し、意識することが大切です。

プラスの面も多いSNSを、危険な目に遭わず上手に活用していくためには、このように家族でルールを決め話し合うこと、自分自身を甘やかさず、しっかり判断していくことが重要だと私は考えます。

8 感謝とできること

東中学校 三年 細田^{ほそだ} ひなた

二〇二〇年に流行し始めたウイルス。そう聞いてほとんどの方が、「コロナウイルス」と答えるでしょう。とても厄介なもので、世界中で感染者が増え、私たちの住む日本にも感染が広がってしまいました。現在、新型コロナウイルスの感染状況が落ちついている国もいくつかありますが、日本ではまだ完全に終息しておらず、新しい変異株も見つかっています。深刻な問題となっています。

私が初めて「コロナウイルス」という言葉を耳にしたのは、二〇二〇年三月頃です。私は当時中学一年生で、「へえ、外国とかで流行してい

るんだ。」と軽い気持ちでニュースを見ていました。しかし、少し経ってから、国内にも感染者が発見されたと聞き、驚きました。それから、私は突然の休校に衝撃を受けることになりました。三学期の途中、一年生という学年でいつも通りの当たり前な生活を送れなくなりました。いきなりの知らせで、「本当に？」と疑ってしまいました。友達との楽しい日々を過ごせなくなり、すごく悲しい気持ちになりました。このとき、いつも通りの生活がこんなにも幸せだったのかと気付きました。

それからは、感染者が国内でも次

第に増加していき、一日の感染者が二百人、三百人という数が当たり前となっていました。そのため、必ずマスクを着用し、手洗いや消毒などの感染症対策に努めるようになりました。国からの緊急事態宣言や三密をさけるなどの方針が出て、感染者は一時的に減少したこともありましたが、この夏には再び感染者が増加しています。最初はこの感染者数を見て危機感がありましたが、毎日ニュースが流れたり、感染者が表示されたりして、正直「またか。多いな。」と思う程度になってしまい、危機感が少し薄れてしまっているよ



うに感じます。

私は現在中学三年生なので、中学校で生活できる時間が残り僅かとなってしまうました。時々、コロナウイルスがなければ、もっと今以上に楽しめていたのかな、と思うことがあります。そして、どこにも行けないこと、行事が以前のようにできないこと、できることに限りがあること、修学旅行に行けるか分からないこと、それらが嫌だとも思います。しかし私たちは、このコロナウイルスを終息させるために、努力してくれている人がたくさんいる、という事に気付かなくてははいけません。自分も感染してしまう可能性があるものにも関わらず、私たちを助けてくれる医療従事者、コロナウイルスの対策を考えてくれている政府の方々、ワクチン開発に携わってくれ

た方々、その他にも、たくさんの方々に感謝するというのを忘れてはいけないと思います。私たち一人一人の命を考えてお仕事に取り組み、昼夜を問わず懸命に働いてくださっている方々に、心から感謝しています。

そして今、私たちができることを考えることも必要です。必要最低限以外の外出は避けること、大人数での会話・会食を避けること、マスク着用や消毒、ワクチンを打つことなどの感染症対策など、私たちにたくさんのことができます。

いつ何時、自分や家族、身近な人が感染してもおかしくはありません。自分の周りの人が感染してしまうことがあるかもしれません。しかし、その時は差別や陰口などは絶対にせず、互いを思いやる心をもってほしいと思います。

いつコロナウイルスが終息するか分からないですが、家で勉強をしたり、友達と電話したり、オンライン授業を通して会話したりと、工夫をして生活していきたいと思っています。皆さんも、このような工夫をすれば、辛い気持ちも楽しい、面白いといった気持ちになると思います。これまでと違った生活も楽しめるかもしれません。

皆さんも、コロナウイルスが終息することを願って、努力してくれている方々に感謝し自分ができることをして、日々の生活を送ってほしいです。

9 生きていくことの大切さ

江戸崎総合高等学校 二年 桐部 心

二〇一六年に神奈川県で起きた福祉施設で元職員がたくさんの人を殺してしまった事件について、今年七月、新聞にその後の関連記事が載っていました。それは殺害された人の供養のために、きれいな花で区切りをつけようと、献花台にヤマユリの花の形を刻む事を拒否した男性がいるという内容の物でした。男性は姉を殺され犯人に死刑を求めました。

見ぬふりをしていたのでしょうか。誰もその人の心に寄り添い、助言をしたり話を聞いたりしていなかったのでしょうか。人の心の中に入り込む事はとても難しいですが、事件が起きる前に何か出来る事があったのではと思います。男性は、「犯人一人が悪いわけではない」と思う気持ちに変わっていったようです。

とって生きるということは健常者だけの特権と考えていたのかと私は思います。犯人は小さい時の作文で「障がい者はいらぬ」などと書いていたようです。すでにその年で人が生きる、生きていくという意味を周りの人たちは話してはくれなかったのでしょうか。その場合、犯人の考え方に至ってしまったことは、犯人一人だけの責任ではないのではと私は考えます。どんなに体が不自由でも、意思疎通ができなくても、一人ひとり心はあります。喜び、悲しみ、痛み、何もかも人の心は感じることができるとは思いますが、生きていくこ



とだと私は思います。そして、それが人の権利です。決して他から奪われてはならない権利です。

犯人にも父親と同じように教師になるという夢があつて、大学へ進み教員免許を取得したようですが、夢はかなえられなかつたようです。その理由は、やはり犯人の心の中までは誰にも見ることはできなかつたということです。なぜならば、それは犯人でも一人の人間として生きていく権利があり、すべて他に見せる必要はないからです。

生きるということは一人ひとりそれぞれに与えられた権利です。しかし、その事を健常者はそれぞれに考え、行動することができません。それが無理である立場の人に手助けができるのも健常者です。犯人はそんな手助けをしようと思つたのでしょうか？

か？

二〇一二年に「明るく意欲があり、伸びしろがある」という判断で非常勤講師としてやまゆり園に採用されたようです。仕事を始めた当初は「障がい者はかわいい」、「今の仕事は天職」などと話していたようですが、仕事になれた頃から入居者への暴行・暴言など勤務態度に問題が出てきました。

二〇一五年頃に「障がい者を皆殺しにすべきだ」と発言していたようです。その時点で犯人の心は壊れていたのではないのでしょうか。周りの人が犯人の考え方を聞き、何かできなかったのでしょうか。犯人が生きていくということに、何か恐怖を感じていたのではと私は思いました。

生きている事の大切さを、犯人は自分の事も考えられなくなつてし

まつたのでしょうか。人間一人ひとり生き方は違います。しかし、物事の考え方、感じ方、進む道が違っていても、様々な感性は生きているからそのものです。人は生まれる所、親、兄弟を選んで産まれることはできません。しかし、生きる権利は一人ひとり誰にでもあります。何を考え、何をして、どう生きるか。私たちは一歩ずつ前に進みながら、今生きていることを大切に、そしてこれからも自分が関わっていく人たちのことを大切にしながら、素敵な未来を切り開いていきたいと思えます。

生きていることの大切さを、皆さんも心に持ち続けてください。

10 今を大切に

江戸崎総合高等学校 二年 宮本^{みやもと} 真希^{まさき}

「自分はどうして生きているのだろうか。」そう何度も思った経験がある。別にいじめを受けているわけでもないし、何か耐えきれない辛いことがあったわけでもない。しかし今を生きているということをとても不思議に思う。手を動かしたいと思えば、手が思うように動いてくれたり、しゃべりたいと思えば口から自然と言葉が出てきたり、目に映る光も、耳から入ってくる音なども、「生きていく」という証拠だと思う。健康に生まれたから、という意味ではない。ただ、こんなことが当たり前すぎて、ほんとに生きていけるのだ

ろうかとバカみたいに何度も思ってしまう。しかし、いつか自分も亡くなってしまふのだと考えるとほんとに怖い。小さい頃母に「人間は亡くなってしまったらどこへ行くの。」と聞いたことがある。その時、母は「天国へ行くんだよ。」と教えてくれた。その時初めて天国というものを知った。天国という所がどのような所なのかとても気になった。

くなったらどうしよう。そう思う毎日。人を亡くしてしまうこと、こんなにも辛いことがあるのだと思つた。弟が亡くなった時、みんなが泣いた。これまでかというくらい私も泣いた。とても悲しかった。それから私は今まで以上に命の重みや尊さを強く感じた。死ぬのは怖い。ましてや、病気の弟の死を誰よりも身近で感じていたから。どうして人は「天国」なんて確証のないものを信じるのだろうか。死んでしまうことより、生きていることの方が奇跡であり、かけがえのないことだと思つた。私の体に流れる血、その血の繋が



があつて、今を生きているのだ。全ての命が存在できるわけでもない、こんな何事もなく健康に恵まれた環境の中で生まれるとも限らない。しかし、人はいつか死んでしまう。亡くなる日は必ず来る。それでも今、私の家族には笑顔がある。そして、とても幸せだ。明日どうなるかなんて誰にも分らない。もしかしたら、明日死んでしまうかもしれない。そのようなことを私はよく考える。だから、今を大事に大切にして悔いのない人生にするために沢山のことをこれから学んでいきたい。いつか自分の生きる意味を見つげたいと思うし、そして、自分も一人の人間として、自分自身の存在意義を未来へと繋げていきたいと思う。

今、世の中ではコロナウイルスにより命を落とす人が増えている。そ

のウイルスが簡単に人の命を奪ってしまったりする。そのような人達の中で自ら命を絶つたりと、そのようなニュースがある度悲しくなる。私は、命を軽々しく考える人間にはなりたくない。辛くて仕方ないこともあると思う。しかし、人の死に慣れ、それを悲しむことのできない人間にはなりたくない。人は一人ひとり奇跡に近い確率でこの世に生まれてきた。だからこそ他人の命も、自分の命も大切にできる人になりたい。かけがえのない今、この瞬間を大切に。



今年もコロナ禍での臨時休校やオンライン授業等、制約がある学校生活の中で、小中高生がそれぞれの視点で、様々な主張を述べてくれました。小学生は、家族や学校生活、環境問題、差別、ジェンダーフリーと将来の夢、中学生は、人間としての生き方や部活動、SNS、コロナ禍での生活、高校生は、生きる意味や生き方についての話題で、多岐にわたるテーマでした。どの主張も素晴らしく、心から応援したい気持ちになりました。

沼里小学校六年・喜納康生さんは、最上級生としての役割を果たしていく中で、笑顔あふれる学校にするために、自分がして貰ったらうれしいと思えることを進んですることが基本と考

えるようになりました。そのためには、人に話しかける勇氣と寄り添う勇氣が必要であることに気付きました。喜納さんの自分達の力で学校を良くしたい気持ちがよく伝わります。人のために役立ちたい気持ちを大切に、自分達で沼里小学校をつくってください。

高田小学校六年・大野そよさんは、八つ年が離れた弟の誕生日と、アフガニスタンの空港で撮影された、男性が赤ちゃんを高く抱き上げて鉄条網越しに米兵に引き渡している写真から、小さな弟を囲みながら家族で笑い合える当たり前の日常の幸せの大切さを実感しました。様々な環境の赤ちゃんの命に思いを寄せる、そよさんの心の優しさに感心しました。これからも、自

分の優しい心と思いやりを大切にして、生きていってください。

桜川小学校六年・椿礼衣さんは、SDGsの目標で、陸や海の豊かさを守る・人や国の不平等をなくすことについて考えました。環境汚染の原因は人間の行動であり、問題を解決できるのは人間だけであること、不平等や差別をなくすためには、自分と違った人を受け入れて考えを変えることが大切であることに気付きました。椿さんの、自分にできることを長く続けていく覚悟が強く伝わります。自分ができることを続け、仲間を増やしてください。

あずま西小学校六年・水口かさねさんは、小さい頃からパイロットになりたいという夢をもっていました。ところが、祖

母や周囲の大人から「今は女性でもなれるの?」と言われ、世の中のジェンダーギャップについて考えるようになりました。水口さんの主張からは、性別で職業を諦めないといけない社会を変えたいという強い思いを感じます。パイロットになるという将来の夢に向けてがんばることが、ジェンダーフリーの社会づくりになると思います。

江戸崎中学校二年・蛭原杏花里さんは、人間として生きるうえで協調性の大切さについて考えました。蛭原さんは、協調性を自分の意思や考えを独りよがりではない言葉で伝え、相手の意見もしっかりと受け止めることと考えました。スクールカーストやSNSによる誹謗中傷、障がい者スポーツに対する行政

の無理解に心を痛め、自分の主張ができずにいる人に耳を傾け、誰にも光が当たる世界を願う強い気持ちを感じました。

新利根中学校二年・川島莉央奈さんは、悩んだ末に美術部から吹奏楽部に転部したことから、自分がやりたいことをやることの喜びを語ってくれました。遅れて入部したハンディを、自分で決めたことだから頑張っているいい演奏ができるようになるうと努力し、皆でつくる音色の楽しさを実感しています。吹奏楽への取り組みを通して、自分がかからやってみたいと思ったことだから努力してできるようになるのが楽しいという言葉は、とても共感できます。

桜川中学校三年・本橋梨心さんは、SNSの良い面を役立て

るために、安全な使い方について語ってくれました。SNSにより多くの学びがあり豊かになると捉え、その危険性を避けるため、通販などで購入する際や規約について分からない時には、家族に相談すること、家族が見ていない所や寝ている時間には使わないルールを家族で約束して活用しています。自分で判断する力を付け、SNSを上手に活用して豊かで実り多い生活にしてください。

東中学校三年・細田ひなたさんは、コロナウイルス感染症から、感謝と自分ができることについて語ってくれました。コロナウイルス感染症で学校が休校になったことや卒業に向けた学校生活に不安や心配を抱えながらも、感染症を終息させるため

に日夜努力している人々へ感謝し、自分達ができることを考えました。また、感染者を差別せず、互いを思いやる心を持つ大切さを強く訴えました。細田さんの思いやりと前向きな気持ち が伝わる内容でした。

江戸崎総合高等学校二年・桐部心さんは、やまゆり園で起きた入所者への痛ましい事件から、生きていくことの大切さについて考えました。殺害された入所者の肉親の言葉から犯人の心のありようについて考え、誰もが生きる権利をもっており、これからの人生を歩む中で関わっていく人たちのことを大切にしながら生きていく決意を述べています。桐部さんが、事件から「生きていく」ことについて、真剣に考えたことが伝わる

内容です。

江戸崎総合高等学校二年・宮本真希さんは、自分が生きる意味について考えました。自分が小学生の時に亡くなった小さい弟さんの病死から生きることと死について考え続け、悔いのない人生にするために今を大切に、いつか自分の生きる意味を見つけないかと思うようになりました。今、この時を一生懸命生き、この世に生まれたことに意味を見いだしたいという宮本さんの思いが強く伝わる内容です。

最後になりますが、発表された皆さん、ご指導いただいた先生方、関係者やご家族の皆さんに感謝申し上げます。講評とさせていただきます。

《編集委員》

会 長	矢 崎 克 実
副 会 長	濱 田 純 男
副 会 長	高 野 貴 世 志
副 会 長	篠 田 啓 子
大会部長	和 田 克 典
	伊 藤 均
	小 貫 勉
	糸 賀 妙 子
	板 橋 好 美
	廣 瀬 茂
	寺 崎 久 美 子
	白 田 京 子
	根 本 浩 夫
	増 尾 五 夫
	宇 佐 美 充 子
	坂 本 千 枝 子

〈主 催〉 青少年育成稲敷市民会議

〈協 力〉 稲敷市・稲敷市教育委員会・稲敷市学校長会

青
少
年
気
に
か
け
目
を
か
け
声
か
け
よ
う

